

全国国際教育研究大会

第59回全国国際教育研究大会が、2022年8月18日、19日にJICA地球ひろば（東京）で開催された。高校生による弁論大会や、国際理解・国際協力に関する研究発表会が行われた。その様子を報告する。

コロナ禍で内なる国際化促進へ

全国国際教育研究大会では、高校生による「国際理解・国際協力に関する生徒研究発表会」を毎年開催している。今年度は新型コロナウイルスの感染防止策として、各学校から中継での発表となった。

国際協力機構JICA地球ひろば所長賞には、青森県の八戸聖ウルスラ学院高等学校の「『いつたい誰が悪い？』技能実習生問題、地方における多文化共生を私たち高校生が担う」が選ばれた。同校では2019年から外国人労働者をテーマに研究しており、今大会では地域社会での技能実習生に対する否定的な意見や認知度が低いという実態について、その背景や解決に向けた取り組みを紹介した。まずは自らが実習生との関係を深めるため実習生に日本語を教えたり、地域住民への発信活動として八戸駅に手作りのポスターを掲示したり、さまざまな活動を展開する。今後は顔の見える関係づくりが重要だと訴えた。

国際交流基金賞には兵庫県立神戸商業高等学校の「ESDで外国人が住みやすい街づくり」が選ばれた。高校生らは、神戸に住む外国人のために日本語や日本の慣習を遊びながら学べる「にほんごすくろく」を作り、夜間中学に通う外国人と交流した実践研究について報告。「にほんごすくろく」は「何月何日におせち料理

を食べますか」といったクイズや「けん玉にチャレンジ」といったカードを用意し、その場で日本文化に触られる工夫を凝らしたという。

また、全国国際教育研究協議会会長賞は東京都立科学技術高等学校が受賞した。審査を行った国際協力機構(JICA)地球ひろば所長の竹田幸子氏は「コロナ禍で日本国内のことに目を向け、日本と自分たちの住む地域がウィンウィンになるような活動を心がけた発表だった。さらに国内の内なる国際化を目指す工夫も見られた」と総評した。

環境破壊が新興感染症を生む

大会1日目は、高校生の視点から国際理解教育に関する課題提起を行う「高校生英語弁論大会」と「高校生日本語弁論大会」、国際保健NPOのシエアII国際保健協力市民の会、共同代表の仲佐保医師による記念講演も行われた。仲佐医師は「感染症が世界を滅ぼす？」をテーマに講じ、人間の環境破壊によって動物の住処である森が消失し、人間と動物がより接するようになったと説明。動物の持つ菌やウイルスが人間にうつることで、エイズ、エボラ出血熱、新型コロナウイルスなど新興感染症が作り出されていると指摘。「病気を治すには、その根本原因に目を向けて環境や社会的な問題を考えていくことが重要だ」と高校生らに呼び掛けた。

全国国際教育研究協議会とは

国際教育(開発教育/国際理解教育)の研究、普及、実践交流などを目的とした学校現場の教員が組織する唯一の全国規模の研究団体。前身となる団体は1970年10月に設立され、国際協力機構(JICA)とも連携して国際教育を全国で推進しており、全国に約2,000の加盟校を有する。

【問い合わせ先】
全国事務局長 中村俊佑(都立五日市高校)
e-mail: zen@jafie.jp
ホームページ: http://jafie.jp/



全国8校の高校生がオンラインで研究成果を発表

なれば、結婚式の数も増えるはず。たくさんの結婚式に出席して、笑顔で友人たちを祝う機会が増えたらうれしいです。そんなポジティブな未来への予感が現在の活動の原動力になっています。今後のことが予測できない世界なら、想像ぐらいポジティブでいたいのです。

アレフィン 将来は動物などの生物を助けるような仕事がしたいです。絶滅したと思われる昆虫が発見されたことを知ったのですが、そうやって一生涯懸命に生きていく生命を守りたい。人間界だけでなく、地球上すべてを見る視点を大切にしていきたいです。

川崎 建築などのデザインによって環境問題を解決する方法を大学で学び、専門性を深めたいです。デザインに興味を持ったきっかけは、中学生のときに活動していた地域おこしのボランティアです。また、日々の生活の中でSDGsという言葉が聞き始めたこともあり、これから環境問題を重視する世界になっていくのでデザインと環境

を学びたいと思いました。途上国の環境問題を解決するような建築を考えたいです。同時に、日々の生活の中で環境問題を考え、実践する大人になりたいと思います。



原口 部活動でマラウイという国に関わり、バッグ販売の循環型ビジネスを経験したことから、大学では国際関係学の方面に進みたいと考えています。大学生になったらマラウイに行ってみたいです。将来は途上国に関わる仕事

をしたい気持ちがありますが、どんな仕事に就いても、誰かのために行動できる人になりたいです。今日この座談会で同性婚や環境問題の話が出ましたが、性別も国境も関係なく、みんなが生きやすく、みんなが活躍できる世界になればいいと思います。これからさまざまな立場の人の意見を聞いて話し合っ、誰かのために行動していきたいです。

アレフィン 今日、みなさんの考えを聞いて本当によかったです。さらに新しいことを考えていくきっかけになりました。将来は、父が海外の大学に行っていたのもあり自分も行きたいと思っています。ニュージールランドかイギリスで学びたいと考えています。そこで学んだことを、日本に戻っている人々に伝えたいです。

川崎 学校のある友達がジェンダーについて発表する内容を聞きました。書類などで性別を男か女が選択する枠がありますが、そのことでどれだけの人々が苦しんでいるのかということを知り、

ジェンダー問題の重大さを感じました。今日の座談会で環境問題以外にもジェンダーや教育など、考える視点をもらえたような気がします。これから、こういう場所で自分の夢や叶えたい世界について話す機会を活かすために、もっと探求して知識をつけていきたいと思っています。

石島 日本の大学で日本についても勉強したいと思っています。なぜなら、国際交流や国際協力の活動をする中で、様々な国の人とお互いの国の話をした時に自分が日本のことをあまり知らないことに気づいたからです。普段活動している団体では政策提言という視点で考えることが多く、どうしても話が固くなりがちで、国内単位で考えることが多かったのですが、今日は新しい視点の話がたくさん聞けました。個人単位でどう向き合っているかを考えることができ興味深い時間でした。みなさんがそれぞれ興味を持っている分野以外にも真剣に向き合ってくれたことにも感謝しています。

興味や分野が異なる者同士で「知る」「伝える」「話し合う」という機会を増やせば、2050年は明るい未来になる。